

翁

## 初日

シテ 翁

ツレ 千歳

狂言 三番叟

地は 知らず

季は 雑

翁

「とうくたたりくら。たたりあがりらゝりとう。

地

「ちりやたたりたたりら。たたりあがりらゝりとう。

翁

「処<sup>ところ</sup>千代<sup>ちよ</sup>までおはしませ。

地

「我<sup>われ</sup>等<sup>ら</sup>も千秋<sup>せんしう</sup>さぶらはう。

翁

「鶴<sup>つる</sup>と亀<sup>かめ</sup>との齡<sup>よはひ</sup>にて。

地

「幸<sup>さいはひ</sup>心<sup>こころ</sup>に任<sup>まか</sup>せたり。

翁

「とうくたたりくら。

地 「ちりやたらりたらりら。たらりあがりらゝりとう。

千歳 「鳴るは滝の水。く。日は照るとも。

地 「絶えずとうたり。ありうとうとうとう。

千歳 「絶えずとうたり常にとうたり。（千歳舞）

千歳 「処千代までおはしませ。

地 「我等も千秋さぶらはう。

千歳 「鶴と亀との齢にて。処は久しく栄え給ふべしや。

鶴は千代経る君は如何経る。

地 「万代こそ経れ。ありうとうとうとう。

翁 「総角やとんどや。

地 「尋ばかりやとんどや。

翁 「やあ座して居たれども。

地 「参らうれんげりやとんどや。

翁 「松やさき翁や先に生れけん。いざ姫小松年くらべ

せん。

地 「そよやりちやんや。

翁 「およそ千年の鶴は。万歳楽と歌うたり。又万代の

池の亀は。甲に三極をそなへたり。渚の砂索々と

して。朝の日の色を朗じ。滝の水冷々として。夜

の月鮮かに浮んだり。天下泰平国土安穩。今日の

御祈禱なり。在原や。なぞの翁ども。

地 「あれはなぞの翁ども。そやいづくの翁。とうく。

翁 「そよや。（神ガク）

翁 「千秋万歳の。歓びの舞なれば。一舞まはう万歳

楽。

地 「万歳楽。

翁 「万歳楽。

地 「万歳楽。

翁

## 二日目

シテ 翁

ツレ 千歳

狂言 三番叟

翁

「とうくたたりくら。たたりあがりらゝりとう。

地

「ちりやたたりたたりら。たたりあがりらゝりとう。

翁

「処<sup>ところ</sup>千代<sup>ちよ</sup>までおはしませ。

地

「我等<sup>われら</sup>も千秋<sup>せんしう</sup>さぶらはう。

翁

「鶴<sup>つる</sup>と亀<sup>かめ</sup>との齡<sup>よはひ</sup>にて。

地

「幸<sup>さいはひ</sup>心に任<sup>まか</sup>せたり。

翁

「とうくたたりくら。

地 「ちりやたたりたたりら。たたりあがりらゝりとう。

千歳 「千歳ましませ千歳ましませ。松の梢に。

地 「鶴や住むなり。ありうとうとうとう。（千歳舞）

千歳 「鶴や住むなり鶴や住むなり。

千歳 「君が千歳を経ん事も。天つ乙女の羽衣よ。千歳ま

しませ松の梢に。

地 「鶴や住むなり。ありうとうとうとう。

翁 「総角やとんどや。

地 「尋ばかりやとんどや。

翁 「やあ座して居たれども。

地 「参らうれんげりやとんどや。

翁 「松や先。翁や先に生れけん。いざ姫小松年くらべ

せん。

地 「そよやりちゃんや。

翁 「およそ千年の鶴は。万歳楽と歌うたり。又万代

の池の亀は。甲に三極をそなへたり。渚の砂さく

くとして。朝の日の色を朗じ。滝の水冷々とし

て。夜の月鮮かに浮んだり。天下泰平国土安穩。

今日の御祈禱なり。在原やなぞの翁ども。

地 「あれはなぞの翁ども。そよや何くの翁。とうく。

地 「そよや。（神ガク）

翁 「千秋万歳の歡びの舞なれば。一舞まはう万歳楽。

地 「万歳楽。

翁 「万歳楽。

地 「万歳楽。

翁  
三日目

シテ 翁

ツレ 千歳

狂言 三番叟

翁 「とうくたたりくら。たたりあがりらゝりとう。

地 「ちりやたたりたたりら。たたりあがりらゝりとう。

翁 「処<sup>ところ</sup>千代<sup>ちよ</sup>までおはしませ。

地 「我等<sup>われら</sup>も千秋<sup>せんしう</sup>さぶらはう。

翁 「鶴<sup>つる</sup>と亀<sup>かめ</sup>との齡<sup>よはひ</sup>にて。

地 「幸<sup>さいはひ</sup>心に任<sup>まか</sup>せたり。

翁 「とうくたたりくら。

地 「ちりやたたりたらりら。たたりあがりらゝりとう。

千歳 「万歳ばんぜいませ。万歳ばんぜいませいはほ巖うへが上うへに。

地 「亀かめや住すむなり。ありうとうとうとう。（千歳舞）

千歳 「亀かめや住すむなり。亀かめや住すむなり。

千歳 「君きみが万代よろづ経ことん事ことも。天あまつ乙女をとめの羽衣はごろもよ。万代よろづまし

ませいはほ巖うへが上うへに。

地 「亀かめや住すむなり。ありうとうとうとう。

翁 「総角あげまきやとんどや。

地 「尋ひろばかりやとんどや。

翁 「やあ座ぐさして居ゐたれども。

地 「参まゐらうれんげりやとんどや。

翁 「松まつや先翁さきおきなや先さきに生うまれけん。いざ姫ひめ小松こまつ年としくらべせ

ん。

地 「そよやりちゃんや。



翁「およそ千年の鶴は。万歳楽と歌ふたり。又万代の

池の亀は。甲に三極をそなへたり。渚の砂索々と

して。朝の日の色を朗じ。滝の水冷々として。夜

の月鮮かに浮んだり。天下泰平国土安穩。今日の

御祈禱なり。在原やなぞの翁ども。

地「あれはなぞの翁ども。そやいづくの翁とうとう。

翁「そよや。（神ガク）

翁「千秋万歳の。歓びの舞なれば。一舞まはう万歳

楽。

地「万歳楽。

翁「万歳楽。

地「万歳楽。

翁

## 四日目

シテ 翁

ツレ 千歳

狂言 三番叟

翁

「とうくたたりくら。たたりあがりらゝりとう。

地

「ちりやたたりたたりら。たたりあがりらゝりとう。

翁

「所<sup>ところ</sup>千代<sup>ちよ</sup>までおはしませ。

地

「我<sup>われ</sup>等<sup>ら</sup>も千秋<sup>せんしゅう</sup>さぶらはう。

翁

「鶴<sup>つる</sup>と亀<sup>かめ</sup>との齡<sup>よはひ</sup>にて。

地

「幸<sup>さいはひ</sup>心<sup>こころ</sup>に任<sup>まか</sup>せたり。

翁

「とうくたたりくら。

地 「ちりやたらりたらりら。たらりあがりらゝりとう。

千歳 「鳴るは滝の水。鳴るは滝の水日は照るとも。

地 「絶えずとうたり。ありうとうとうとう。

千歳 「絶えずとうたり。常にとうたり。（千歳舞）

千歳 「君の千歳を経ん事も。天津乙女の羽衣よ。鳴るは

滝の水日は照るとも。

地 「絶えずとうたり。ありうとうとうとう。

翁 「総角やとんどや。

地 「尋ばかりやとんどや。

翁 「やあ座して居たれども。

地 「参らうれんげりやとんどや。

翁 「千早振。神のひこさの昔より。久しかれとぞ祝ひ。

地 「そよやりちやんや。

翁 「凡そ千年の鶴は。万歳楽と歌うたり。又万代の池

の亀<sup>かめ</sup>は。甲<sup>かふ</sup>に三極<sup>さんきよく</sup>を備<sup>そな</sup>へたり。渚<sup>なみ</sup>の砂索<sup>いさく</sup>々として。  
朝<sup>あした</sup>の日<sup>ひ</sup>の色<sup>いろ</sup>を朗<sup>らう</sup>じ。滝<sup>たき</sup>の水<sup>みづ</sup>冷<sup>れい</sup>々として。夜<sup>よる</sup>の月<sup>つき</sup>あ  
ざやかに浮<sup>うか</sup>んだり。天下<sup>てんか</sup>泰平<sup>たいへい</sup>国土<sup>こくど</sup>安穩<sup>あんをん</sup>。今日<sup>こんにち</sup>の御<sup>ご</sup>  
祈禱<sup>きたう</sup>なり。在<sup>あり</sup>原<sup>はら</sup>やなぞの翁<sup>おきな</sup>ども。

地 「あれはなぞの翁<sup>おきな</sup>ども。そや何<sup>いづ</sup>くの翁<sup>おきな</sup>とうとう。

翁 「そよや。（神ガク）

翁 「千秋<sup>せんしゅう</sup>万歳<sup>ばんざい</sup>の歡<sup>よろこ</sup>びの舞<sup>まひ</sup>なれば。一舞<sup>ひとまひ</sup>まはう万歳<sup>まんざい</sup>樂<sup>らく</sup>。

地 「万歳<sup>まんざい</sup>樂<sup>らく</sup>。

翁 「万歳<sup>まんざい</sup>樂<sup>らく</sup>。

地 「万歳<sup>まんざい</sup>樂<sup>らく</sup>。

翁

法ほふ会ゑ舞まひ

シテ 翁

ツレ 千歳

狂言 三番叟

翁

「とうくたたりくら。たたりあがりらゝりとう。

地

「ちりやたたりたたりら。たたりあがりらゝりとう。

翁

「処ところ千代ちよまでおはしませ。

地

「我等われらも千秋せんしうさぶらはう。

翁

「鶴つると亀かめとの齡よはひにて。

地

「幸さいはひ心こころに任まかせたり。

翁

「とうくたたりくら。

地 「ちりやたらりたらりら。たらりあがりらゝりとう。

千歳 「鳴るは滝の水。鳴るは滝の水。日は照るとも。

地 「絶えずとうたり。ありうとうとうとう。

千歳 「絶えずとうたり。常にとうたり。（千歳舞）

千歳 「処千代までおはしませ。

地 「我等も千秋さぶらはう。

千歳 「鶴と亀との齢にて。処は久しく栄え給ふべしや。

鶴は千代経る君は如何経る。

地 「万代こそ経れ。ありうとうとうとう。

翁 「総角やとんどや。

地 「尋ばかりやとんどや。

翁 「やあ座して居たれども。

地 「参らうれんげりやとんどや。

翁 「松や先翁や先に生れけん。いざ姫小松年くらべせ

ん。

地 「そよやりちやんや。

翁 「およそ千年の鶴は。万歳楽と歌うたり。又万代の

池の亀は。甲に三極をそなへたり。渚の砂索々と

して。朝の日の色を朗じ。滝の水冷々として。夜

の月鮮かに浮んだり。天下泰平国土安穩。今日の

御祈禱なり。在原やなぞの翁ども。

地 「あれはなぞの翁ども。そやいづくの翁とうく。

翁 「そよや。(神ガク)

翁 「万歳の亀是にあり。千年の松庭にあり。誠にめで

たきためしには。石をぞ引くべかりける。

地 「君が代は。

翁 「千秋万歳の。歓びの舞なれば。一舞まはう万歳

楽。

地 「万歳楽。」

翁 「万歳楽。」

地 「万歳楽。」

翁

父尉延命冠者

シテ 翁

ツレ 千歳

狂言 三番叟



父尉「あれはなぞの小冠者ぞや。

地「釈迦牟尼仏の小冠者ぞや。生れし所は忉利天。

父尉「育つ所は鼻が。

地「そのましまさば。とくしてましませ。父の尉親子

と共につれて御祈禱申さん。

父尉「一天雲治まつて日月の影明し。雨うるほし風 穏

に吹いて。時に随つて旱魃。水損の恐れ更になし。

人は家々に楽しみの声絶ゆる事なく。徳は四海に

あまり。悦びは日々に増し。上は五徳の歌をうた

ひ舞ひ遊ぶ。そよや悦びに。又悦びを重ぬれば。

ともに嬉しく。

地「物見ざりけりありうとうく。